

熊本大学大学院法曹養成研究科  
平成25年度第2期募集 法律科目試験問題

# 民 法

平成24年10月27日(土) 13:00~16:30

## 解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は4枚(各問について2枚)、下書き用紙は2枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答用紙は、第1問と第2問とで異なります。それぞれ正しい用紙に解答して下さい。
5. 解答は横書きにして、各問につき2枚の解答用紙(裏面も使用)に収めて下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
6. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
7. 問題の内容に関する質問には応じません。
8. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
9. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

【第1問】以下の事例について、設問に答えなさい。但し、各設問の事実は相互に関連しないものとする。(配点：40点)

(1) Aは広島市に建物を所有し、Bは熊本市に建物を所有していた。そこで、AとBは、それらを交換する本件契約を平成23年11月10日に締結した。

(2) 本件契約において、平成23年11月30日に、引渡しと所有権移転登記手続を行う旨を定めた。

設問1 Aが所有していた建物が、平成23年11月20日に落雷により焼失した。Aは、C損害保険会社と火災保険契約を締結していたため、C社からAに火災保険金が支払われた。この場合におけるAB間の法律関係は、どのようなものか。

設問2 引渡しの後、Aが所有していた建物の土台部分が白アリに食われボロボロで、修繕しても元どおりにならないことが判明した。この場合におけるAB間の法律関係は、どのようなものか。

【第2問】以下の問いに答えなさい。(配点：20点)

Xは所有する甲土地をYに売り引渡を了したが、この売買契約は錯誤無効であった。XはYに甲土地の返還を求めたい。考えられる法的構成を二つ記載し、その法的効果の違いも説明せよ。

以上